



カレブ通信

2013 年 9 月 24 日

第 23 号

1 各地カレブの会の予定

内容

1 各地「カレブの会」の
予定

2 ミニ報告

「病める方の回復」

伊藤博康

3 カレブ ストーリー 1

「希望の車いすと

神様の恵み」

谷 雅史

4 カレブ ストーリー 2

「私の歩んだ道と

キリスト教との出会い」

八尋隆幸



「カレブ ストーリーとは」

「今や私は、きょうでもう
85 歳になります。・・・

モーセが私を遣わした日のよ
うに、今も壮健です」

（ヨシュア記 14 章）と、信
仰によって主の御心を 成し
遂げたいと願うカレブの熱い
思いが「カレブの会」のスピ
リットです。

「カレブ通信」には、現代の
カレブとして歩む人々のさま
ざまな日常の物語りが綴られ
ています。

●東京カレブの会 10 月 8 日（火）

今回だけ 15 時から 17 時半 OCC 会館 402 号室にて

神山武さまのお話しです。テーマは「定年退職後にイエスさまと出会う」

●宇都宮 カレブの会 10 月 12 日（土）午後 2 時から シャロームにて

●仙台カレブの会 9 月 21 日（土）午後 2 時から 根田宅にて

★ 新たな「カレブの会」の立ち上げ：

西宮市で北原祥光さまが「カレブの会」の立ち上げをお祈りしています。主が
その願いを実現してくださるよう共に祈りましょう。

2 ミニ報告「病める方の回復」 伊藤博康

2011 年 9 月の『カレブ通信』に私が心の病んでいる人達との関わりを持っ
た証を載せて頂きました。その後の活動の報告をそろそろ出しても良いのではと
の、勧めを受けまして、小さな、お話を載せて頂こうと思いこの記事を書いてお
ります。

さて、最近、新しく、集会に、女性 A 男性 B（年齢は 3・40 代）の二人の方
が参加されました。診断では A、B、共に統合失調症という事でした。

A はカトリックの教会に通っていた事があり、二人を集会に誘って、車に乗せ
て来たのは、集会の責任者、クリスチャンで精神科の訪問看護師で、A にイエス
様の証をすると、私もイエス様を信じて、癒やして貰おうかなと言った時から、
それまで、ほとんど寝たきりで、起きられなかったのが、急に起き上がる事が出
来て、集会にも来られたのです。

A は来た時から、殆んど既に、癒されておりました。B は、A に誘われて来
たのですが、幻聴、幻覚が相当ひどい状態でした。皆で賛美をし、それぞれ個人
的に持っている課題などを自由に話し合い、神様が今日何を語ってくださるか、
聖書を読みましょう、と皆で、第 2 テサロニケ 1 章を読み、語られた事に基づい
て、苦しみや悩みも受け入れ神様によって慰められる事を信じて、互いに祈り合
いました。

さて、次の集会の日が来て、再び彼らに会った時、驚きました。別人が来たの
かと思ったほど、すっかり、すっかりした顔を見せてくれたのです。そして、皆
で賛美をし、聖書は第 2 テサロニケ 2 章を読み、皆で自由に課題や感想などを語
り始めて、また驚かされました。二人が口をそろえて、2 テサロニケ 2：7・8
が私達に起こったのだと言い切ったのです。『不法の秘密は既に働いている
が、主は御口の息を持って彼を殺し、来臨の輝きをもって、滅ぼしてしまわれま
す。』現実に、A は、前回より、顔も明るく、話も確りしており、B は幻聴幻覚
もなくなり、態度も話も、はっきりしているのです。全ての栄光を主にお返しし
て、イエス・キリストの聖名をほめ讃えます。

3 カレブ ストーリー (1)

「希望の車いす」との出会いと神様の恵み

谷 雅史



谷雅史ご夫妻

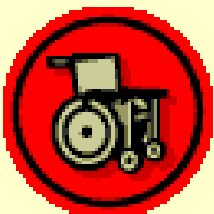
クリスチャンの妻の祈りと長男の交通事故をきっかけに40歳で市川八幡キリスト教会でバプテスマを受けました。米国からの高齢の建築ボランティアの方々の無償の働きに感動し、定年後に希望の車いすの働きに導かれ、理事長を拝命しました。会社生活は、1973年に住友化学に入社して以来、主に海外ビジネスに関わり、現在人材開発部で教育を担当しております。

これは効率を求めるビジネスの世界とは全く違う、お金には代えられない、希望を届けて人と人とのつながりを復活する素晴らしい働きです。クリーニングには子どもから大人まで、ハンディを抱える方も含め様々な人が集い、ベテランボランティアの指導下でそれぞれが出来ることを奉仕しています。この活動は日本に眠っている力を引き出して新しい関係を作り出し、日本とアジアをつなぐ草の根の働きになっています。

谷雅史さまへの

お問い合わせメール：

masafumitani@aol.jp



私が「希望の車いす」の働きに出会ったのは、5年前タイに単身赴任中のことでした。使われなくなった車いすを回収・整備し、ピカピカに磨いてアジアの方々に届けるというこの働きに参加して感動した娘から、タイに車いすを運んでと頼まれました。成田空港で初めて創始者のメリー・ペナーさんとお会いし、息子さんに最初の車いすが届いた日のこと、家族一緒に出かけられることの喜び、車いすと一緒に希望を届けたいとの熱い思いに心を打たれました。タイで50年宣教をされている森本憲夫先生ご夫妻が車いすを受け取って困っている方々に届けてくださいました。その熱意と、受け取った方々の喜びの声に励まされ、何度も運びました。一人の母親の純粋な思いから最初の車いすが2002年に中国に贈られ、思いに共鳴して仲間が集まりNPO組織となり、昨年で累計千台を突破、ボランティア参加者は毎年千名、寄付者は百名を超え、寄贈国は13カ国に広がりました。この度ベトナムのハノイを訪問し、現地のカトリック・リリーフ・サービスの協力で車いすを必要としている方々とお会い出来ました。近所の着物の繕いをして一日1ドル以下の生活している方、障害を抱えつつITを学んで社会復帰し、家庭を持ちたいと夢を持つ学生たち、ベトナムには約7百万人の障がい者が車いすや支援を必要としているそうです。

ボランティア達が力を合わせて蘇らせた車いすを受け取った人の喜びがどんなに大きいことか！一日中家の中で寝かされていた人が自由に外出して友達に会える、仕事ができる、交わりが復活し、家族友人みんなが喜ぶ、、、。これは効率を求めるビジネスの世界とは全く違う、お金には代えられない、希望を届けて人と人とのつながりを復活する素晴らしい働きです。クリーニングには子どもから大人まで、ハンディを抱える方も含め様々な人が集い、ベテランボランティアの指導下でそれぞれが出来ることを奉仕しています。この活動は日本に眠っている力を引き出して新しい関係を作り出し、日本とアジアをつなぐ草の根の働きになっています。

私はクリスチャンホームに生まれましたが、若い頃はこの世の楽しみに心を奪われ、自分勝手な生き方をしていましたが、神様の憐みでクリスチャンの妻と巡り合い三人の子供を授かりました。軽い発達障害を持つ長男が小学校1年の時に自転車にはねられて頭蓋骨内に出血し、手術後に高熱が出て危ない時、妻の必死の祈りに応えて牧師夫妻が駆けつけてくださり、教会の皆さんの熱心な祈りのうちに息子は危機を脱しました。これをきっかけに私は40歳の時洗礼を受けました。それまでの心の重荷が取れて自由になり嬉しくて、会社のトイレで讃美歌を口ずさむほどでした。会堂建築を一番安いアメリカのボランティアに建ててもらう方法を選んだところ、年配の方が多く、病を抱えている方も来られました。ところが、「どこからでも天国に行ける」と一生懸命奉仕して、食費を削ってまで献金して下さいました。主の御用のために奉仕するボランティアの純粋な姿が心に焼きつきました。クリスチャンになって、心が熱くなる出会いは尽きません。振り返ると、主の恵みと導きは想像をはるか超えて豊かで痛み深いです。クリスチャンのパスポートを手に、この働きを通じて福音を伝えていきたいと願っています。

栄光在主

3 カレブ ストーリー (2)

私の歩んだ道とキリスト教との出会い

八尋隆幸

2 年前定年を迎えた当時の人生観は、「人生には 3 のステージがある。親に頼る学生時代、親から独立して、家族を養う会社時代、そして最後の第 3 のステージ。それは私にとり最も大事なステージで、人生を終える時に誇りと名誉と満足感を得ることができるかどうかのステージ。今は何をすべきかわからない、しかしこの目標のために何か見つけるつもりだ。また人に対して正直で公平であり続ける限り、いいことが自分に訪れていると思う」で、この話をしたところ、友人のコメントは「そういう心を持つことで、神は彼自身をあなたに現すと思う。あなたの求めているのは神の福音だ。」彼の勧めで、The Navigators の紹介を受ける。また「カレブの会」へも積極的に参加している。地元市川の OMF (ザ・チャペル・オブ・アドレージョン) に週末通っている。

私の歩んだ道：

今までの人生、大学、会社、部署の選択、留学、友人形成など多くの面で良い方向に行き、自分だけの力でない大きな力で見守られてきたような気がする。恵まれた人生の中で一つ大きな決断をしたことがある。それは長女の妊娠・結婚の時である。娘は大学 1 年の 18 歳の時に妊娠し、相手も同じ 18 歳。結婚、出産したいという子供達と、まだ早い、将来を考えろという両家の親たち。一時は子供達が堕胎に同意する。手術の前日友人から突然食事の誘いを受け、娘の件を話す。友人のアドバイスもあり、自分の判断の間違いに気づき、先方の親、妻を説得。最終結婚、出産に至った。娘家族はその後大学を中退し就職、近くに居を構え、孫達を連れて毎週末食事に来る。この習慣はもう 15 年続いている。孫たちも 15 と 14 歳になる。この大きな決断も自分ではなく、神様がそう導いて下さったと今は思う。

今後のこと：

これまでの自分の悟りとして「誰にでも公平に」、「利己的にならない」、「自慢しない」、「正直に」、「こびない」、「いつも相手の立場に立つ」とかありますが、つい自分に優しく、ハードルも徐々に低くなり、まあいいかといった具合になってしまいます。自分が亡くなる時に達成感と満足感と皆に尊敬されていくためには、神様を信じ、その教えを守り行うことが必要だと学びました。まだバプティズマを受けていませんが、いずれ受けて、神様の教えに従い、今まで私を育てて下さった家族、友人、社会に恩返しをしていきたいです。まだまだ未熟者ですが、聖書を一日も早く学び、恩返し、貢献の道を見つけ、実行していきたいと思います。そして今後どのような試練が来ても、神様、イエス様と共に乗り越えて行こうと思います。



八尋隆幸ご夫妻

八尋隆幸（やひろたかゆき）。62 歳。60 歳定年後引き続き同じ会社で契約社員として勤務中。今まで育ててくれた社会に対して自分が貢献できる何かを、キリストの教えに従い見つけ実行するのが今後の目標。

これまでの自分の悟りとして「誰にでも公平に」、「利己的にならない」、「自慢しない」、「正直に」、「こびない」、「いつも相手の立場に立つ」とかありますが、つい自分に優しく、ハードルも徐々に低くなり、まあいいかといった具合になってしまいます。自分が亡くなる時に達成感と満足感と皆に尊敬されていくためには、神様を信じ、その教えを守り行うことが必要だと学びました。

八尋隆幸さまへのお問い合わせ先メール

Yahiro.Takayuki@otsuka.jp

